省力穂肥こそカリが大事！

最近の水稲栽培では、省力低コストを目的に、高チッソの一発コーティング肥料の施肥が増えています。最初の頃は、減収することはありませんでしたが、近年、高温の影響もあり肥もちが悪いです。また長年使用すると生育に必要なリン酸、カリが土壌から収奪され、収量や品質が低下しています。そのため一発肥料を施用していても穂肥の施用が必須となっています。

今回は圃場に不足しがちなカリに焦点を当て、穂肥での必要性について考えていきます。

○穂肥におけるカリの重要性

稲におけるカリの役割は、浸透圧の調節、炭水化物の転流促進、気孔の制御などがあります。稲の体内でカリが不足した状態で高温になると、水分ストレスを回避しようとして気孔の多くを閉じます。そのため、光合成で必要な二酸化炭素の取り込みが減って光合成効率が低下するので収量が減少します。水田のカリが不足する理由は以下の通りです。

○水田にカリが不足している理由
- 長年にわたるL型肥料の使用
- 堆肥や土壌改良材の施用中止
- 追肥の省略
- 稲わらの圃場外持ち出し

○カリ不足が続くと
穂の枝梗数や1穂もみ数減少
⇒幼穂形成期に欠乏するとかなり減収

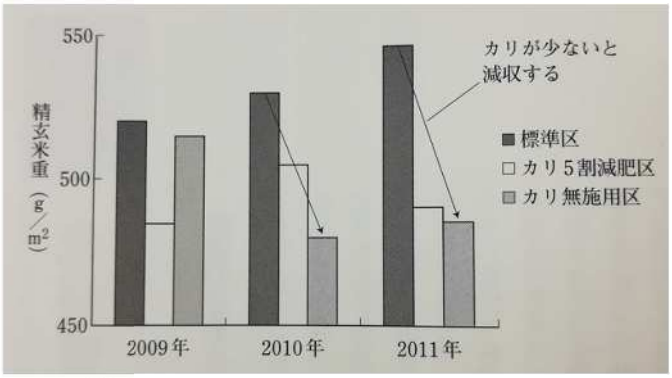

図-1　水田でカリの施肥が少ないと減収
（イネの高温障害と対策：登熟不良の仕組みと防ぎ方より抜粋）

○ドローンでの穂肥はこれで決まり！

無人航空機専用 3113（スカイ 3113）　成分（３０－１－１１－３）

特　　徴：チッソ成分が高く省力施肥が可能。カリによって光合成産物の転流促進による増収
施肥時期：出穂１８日前～出穂直前
施 肥 量：倒伏しやすい品種：３～５kg/10a　　倒伏しにくい品種：５～７kg/10a

施肥量（10a当たり）	チッソ施肥量（10a当たり）
3kg	0．9kg
4kg	1．2kg
5kg	1．5kg
6kg	1．8kg
7kg	2．1kg

YouTube　LINE

多木化学ホームページ URL　https://www.takichem.co.jp/

アグリサービス室メールアドレス　aguri@takichem.co.jp

多木化学(株)アグリサービス室　財家　脩